



「平成 28 年度 看護師研修会」 報告書



【期 日】平成 28 年 10 月 13 日 (木)

【会 場】アバンセホール

【主 催】佐賀県保育会

【参加者数】114 名

【内 容】

研修 1 10 : 00 ~ 12 : 10

「親と子の共育ち～保育と看護のはざまにて～」

講師 橋本武夫 氏

(社会福祉法人若楠 副理事長 若楠児童発達支援センター長)

研修 2 13 : 00 ~ 16 : 00

「保育中によくある子どもの病気ケガ

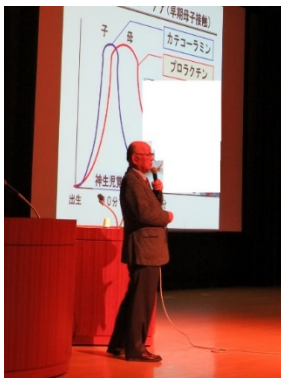
～まずの対応から保護者連絡とおたよりづくりまで～」

講師 新谷まさこ 氏 (看護師 / 子育てと仕事.com 代表)



研修 1 『親と子の共育ち～保育と看護のはざまにて～』

講師 橋本武夫 氏 (社会福祉法人若楠 副理事長 若楠発達支援センター長)



1. 胎内からの絆構築

胎児、神生児の神秘性・不思議 命はどのようにして芽生えるのか

- ・精子 2 億分の 1 の命。→命は重たい
- ・胎児の驚くべき能力

5 ヶ月：味覚・嗅覚・触覚・聴覚が育つ

※お母さんの優しい気持ちを響かせてやる (シンフォニー)

7 ヶ月：お母さんの感情を感知する

※お母さんがゆったりすると体重も増え免疫力も強くなる

- ・胎児の循環 (卵円孔と動脈管) も出産 (頭蓋骨が割れる・陣痛・胎脂) も神様の贈り物
- ・生後 1 時間以内に嗅覚をたよりに母親の体によじ登り乳首に辿り着き吸いつく



・生後1日目の母子の接触（バースカンガルーケア）はその後の児童虐待を減少させる
バースカンガルーケア（早期母子接触）の瞬間プロラクチンホルモン（母性愛ホルモン）が分泌
 される。それにより「かわいい!」「早く抱きたい」という感情が芽生える。おっぱ
 いを作るホルモンでもある→**乳首を吸われる事により母親になる**
 赤ちゃんにもカテコラミン（神経をピンとさせるめざましホルモン）が生後**2時
 間**分泌される（神生児覚醒）→この時こそ**母子接触を（究極の育児の原点）**



◎「乳児期は抱いて、語り掛け、おっぱい!」→基本的信頼関係の構築

2. タッチケア—って知ってる?

◎話し掛けながら肌と肌を触れ合うことによって心と体の発達を促し母と子の愛情形成を促す。

触られるとオキシトシンが分泌される→安心感・満足感・幸せ感が湧き・問題行動が減る
 心を込めて触れ合うとお互いに癒される（触っている人にも分泌され愛情が湧いてくる）

※**タッチケアの心はふれ愛** **オキシトシン=心を育てるガソリン**

赤ちゃんの脳は生後1年で400gから800gになる。2年までに1000gを超える。この
 2年間で大事（三つ子の魂100まで）→人間らしさを育てる。脳の目覚めは五感を通して
 発達する（物を見る・音を聞く・おっぱいを吸う・触れ合う=タッチケアで）

3. ちょっとおかしな子?

自閉症もどき

- ・目が合わない あやしても笑わない
- ・指さししない ふり向かない
- ・言葉が出ない 無表情 逆にギャーギャー
- ・キレる 多動 孤立 等

原因

- ・戯れとキャッチボールがない 抱かれていない
- ・テレビ・ビデオにどっぷり 怒ってばかり（褒めることがない）

発達障害もどき?への対応

- ・「褒める・Hug・お父さんの出番」の3ポイント
- ・もう一度乳児期に戻ってHug（愛）を!
 ※反応性と応答性が子どもの心が育つ第1歩
 ※キャッチボールとオキシトシンの噴霧が大事!



テレビゲーム・携帯・ハイテクの害

→自閉症状が出現（言葉の遅れ・コミュニケーション不全・ひきこもり・自己中心）

◎小学校高学年に「子どものくせに!」は禁句! そうでないと17歳の犯罪が増える。

◎子どもの時の戯れ遊びは、神が子どもに与えた特性・贈り物!

4. あらためて保育とは?

「保育士（保母）とは、ほほ（頬）をゆるめ、ほほ（頬笑）えんで、ほほ（懐）を開き
 （歩歩）ゆっくりと、しかし時には火帆（火の子を上げて燃える炎）のように叱咤激励をしな
 いといけない」

◎自分のストレスを子どもにぶつけない（ストレス発散方法を持つ）

◎子供に教えてやるのだといううぬぼれ!は持たない。教育ではなく響育・子どもから教えら
 れて学ぶ。 【共感】【共鳴】【共育ち】

◎「対治」と「同治」 対治は否定から、同治は受け入れる事。否定は憎しみ、受け入れは
 愛・優しさ。敵をも受け入れることは究極のHug。

◎今保育・看護に求められるもの=ふれ愛による共育ち（響育） **Hugは育児の原点**

研修2『保育中によくある子どもの病気ケガ

～まずの対応から保護者連絡とおたよりづくりまで～

講師 新谷まさこ 氏 (看護師/子育てと仕事.com 代表)



研修の目標：子どもの健康を保護者と一緒に見守れるようになる



1. 子どもの体調不良の見分け方

食べる・寝る・遊ぶ+親、保育者の胸騒ぎ（普段と比べてどうか？）

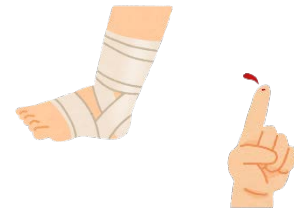
五感を使って情報収集をする（見る・聞く・触れる）

※「子どもの病状は早く進む」を利用する

2. 子どもの看護の基本

①安静 ②水分補給 ③栄養補給（体・心）

※体からの色のサイン：うんちの色・尿の色・鼻水の色



3. ケガの応急手当

感染と出血を防ぐため 傷の手当てをする事で皮膚の回復力を高める

・傷の応急手当の基本：①洗う ②止血 ③観察 ④処置

・感染しないために菌やウイルスを洗い流すのが効果的

（30秒以上流水で。石鹸を使用するとよりいい）

・炎症反応の4つの特徴：①赤くなる ②痛くなる ③膨れる ④熱くなる

・止血方法：「押さえる」＝「冷やす」＋「圧迫」 ※キーワードは密着

・傷の違いと基本のケア

擦り傷（よこ傷）＝保護する 切り傷・パッキリ傷（たて傷）＝縫合・密着

4. (体験) 湿潤療法 (モイストヒーリング)・ラップ療法

5. 打撲やねんざの対応基本：①安静 ②冷却 ③圧迫・固定 ④挙上

※頭を打った時の対応（急性期と慢性期）

6. けいれん発作の対応の仕方（熱性けいれんガイドラインの変更）

7. 感染症予防3つの要素：①感染経路 ②宿主 ③病原体

8. (ワーク) 感染症予防について園の取り組みをグループで話し合う

9. 保護者連絡の3つのポイントとおたよりの活用

①保護者主体で話す ②シンプルに伝える (PREP、5W1H) ③今の関心をつかむ

◎保健たよりは保護者へのラブレター

◎保護者は家に帰ったら自分で対応しないとイケない

→#8000 (小児救急電相談) 病院案内は、「99 さがネット」 を伝える



効果及び評価

子供は神様からの贈り物という意味を学べ、子ども達一人ひとりの命の尊さをあらためて感じた研修だった。Hug =肌と肌のふれ愛をこれからも大切に子ども達との愛着形成を楽しみたい。又、病気やケガの保護者への連絡のポイントを園にも周知し、保護者の思いを大切に対応していきたい。

(文責：本應寺保育園 馬場弘子)

